

酪農宮崎

令和7年3月31日 印刷
令和7年4月 1日 発行

編集人:有馬 慎吾
発行所:宮崎市霧島1丁目1番地1
宮崎県農業協同組合
電話(0985)31-2100
<http://www.kei.mz-ja.or.jp/>
印刷所:宮崎市大字赤江字飛江田931
宮崎紙工印刷株式会社
電話(代)78-2324

みやざき産牛乳をみんなで飲もう!!
毎月1日は牛乳の日!

NO.641
2025年4月



宮崎県酪農青年女性酪農発表大会

4月号目次

酪農情勢報告	1
ルーツを訪ねて!	2
宮崎県酪農青年女性酪農発表大会	3
LL牛乳贈呈式/表紙募集	4
暑熱対策について	5~6
飼料価格改定	7
戸数・頭数調査	8

農学部ナンノ教授のひとりごと	9
全酪連広告	10
全農広告	裏表紙



酪農情勢報告

1. 生乳生産動向

令和7年3月14日現在

指定団体	2月(トン)	前年比(%)	累計(トン)	前年比(%)
北海道	311,800	99.3	3,608,434	100.9
東 北	35,733	96.8	411,184	97.7
関 東	81,045	96.4	922,767	99.5
北 陸	5,036	95.1	58,250	96.4
東 海	22,649	93.4	259,265	97.1
近 畿	10,858	95.4	123,945	98.3
中 国	22,645	96.3	259,671	100.0
四 国	7,825	93.0	90,442	96.6
九 州	42,619	92.9	486,127	97.5
(内、宮崎)	5,331	96.2	60,549	100.9
都府県	228,411	95.3	2,611,651	98.4
合 計	540,211	97.6	6,220,085	99.8

2. 販売状況

令和7年3月14日現在

用 途	区分	2月(トン)	前年比(%)	累計(トン)	前年比(%)
飲用牛乳	全国	223,665	95.8	2,682,741	97.6
	九州	29,610	92.4	338,998	96.2
はっ酵乳等	全国	31,395	97.8	385,883	99.0
	九州	6,104	94.7	78,370	101.0
特定乳製品	全国	152,150	100.0	1,587,528	104.1
	九州	4,941	92.6	44,196	105.6
生クリーム	全国	99,548	97.4	1,178,756	100.1
	九州	1,869	96.9	23,534	93.0
チーズ	全国	33,452	99.2	385,176	99.0
	九州	95	101.4	1,029	101.5
合 計	全国	540,211	97.6	6,220,085	99.8
	九州	42,619	92.9	486,127	97.5

(小数点以下の四捨五入等で合計が一致しないことがあります)

3. 生乳出荷量別生産者戸数 2月

生乳出荷量	戸数
100 t 以上	5 戸
80 t 以上 ～ 100 t 未満	2 戸
60 t 以上 ～ 80 t 未満	5 戸
40 t 以上 ～ 60 t 未満	27 戸
20 t 以上 ～ 40 t 未満	56 戸
10 t 以上 ～ 20 t 未満	52 戸
10 t 未満	19 戸
合 計	166 戸
最高出荷量	546t/月
平均出荷量	32t/月

4. トピックス

本県における口蹄疫終息より15年～忘れない～

春の日差しが心地よい毎日でございますが、お健やかにお過ごしのことと存じます。新年度を迎えるこの時季は、少なからずとも出会いと別れがあり、一期一会のありがたみを感じられる季節でもあります。一般社団法人宮崎県酪農公社につきましては、昭和43年の設立以降、県内唯一の乳用牛預託施設として県内の酪農家の労働力軽減や優良後継牛の生産、酪農生産基盤の維持に貢献してまいりました。しかしながら、近年の飼料・資材等の高騰や戸数・頭数の減少による預託収益の減少により、累積赤字が増大し、各種情勢の明確な好転が見込めない状況の中、自力再建のためには、預託農家の更なる負担増が不可避であり、借入金等の債務超過等の増大により更なる経営悪化が懸念されます。預託事業の継続も含め、あらゆる角度から関係機関と協議・検討を重ねてまいりましたが、痛恨の極みではございますが、公社事業を廃止し、組織としては令和7年9月をもって解散するに至りました。JAみやざき酪農課の重点施策として生乳生産基盤の維持・拡大への取り組みの一つとして預託事業を活用した分業化の推進を掲げており、これまでは酪農公社との連携・預託推進を図ってきましたが、先述に伴い、県内酪農家へ影響が出ないように今月よりJAみやざき酪農課を経由した全国連乳用牛預託事業へ移行してまいります。詳細につきましては、最寄りの地区本部・専門酪農協及び本課へお問合せくださいますようお願いいたします。

平成22年4月に本県における口蹄疫が発生し、終息してから15年の月日が経過いたします。今でも忘れられないこととして記憶に残っていることと思いますが、常に教訓として決して、風化させてはいけないうる出来事です。米国の乳牛における鳥インフルエンザが昨年3月に初報告され、未だ発生しており延べ17州977農場(令和7年3月5日時点)で感染が確認されております。また、国内では昨年11月に国内初確認となりました牛感染症のランピースキン病が発生し、発生農場の周辺地域の続発や遠方での発生が確認され、他県等への感染拡大も危惧されます。本ウィルスはサシバエを媒介して感染しますので、殺虫剤や防虫ネット等によるサシバエ対策をお願いいたします。隣国の韓国南東部の肉牛農場にて今年3月14日に口蹄疫が発生しております。まん延防止措置のため、発生農場での防疫措置や周辺農場への緊急的なワクチン接種等が講じられているものの発生が拡大しております。本県における過去2度(平成12年・平成22年)の口蹄疫は韓国で口蹄疫が発生した後に県内農場で発生が確認されているため、これまで以上の警戒による防疫対策の徹底が必要です。今一度、ウィルス侵入防止対策等の対応徹底をお願いいたします。

—唯一生き残ることが出来るのは、変化できる者である—

酪農課 加藤 喜博

ルーツを訪ねて! 「老牧夫回想録」より(高橋照次著)

(ロ) 乳価交渉は四者(生産者、メーカー、販売人、消費者)の納得できる線で

これもまた至極当然のことではないが、先般の本県における市乳一円値上げは長期間かつたが、県当局がこの原則を踏まえて配慮していたことが、大きく物を言っていると思われる。しかるに今回の東京都で起った販売店による末端値上げ三円の強行は、余りにもマンモス化した大手乳業の、これら販売店掌握の弱さを曝露したものであるが、一面に於ては昨年の二円値上げの際の配分と、その後の公取の審問に対する、メーカーと行政、特に農林省当局の責任回避に対する不満の爆発でもあろうか。

いずれにしても、今回の如く、世界の中の酪農の立場を考慮しない末端における値上げは、日本酪農の将来を脅やかす重大問題である。

(ハ) 指導価格制度の復活を急げ

つい先頃まで、某大手メーカーは「指導価格制度の復活は好ましくない」と云っていたが、自らの力で販売店を統制できないことを曝露した今日でも、猶且つそれを言うならばナンセンスに過ぎない。末端価格の引き上げの多い方が生産者に対する分け前も多いと、甘く見ていた我々生産者も、メーカーが販売店の前に斯くも無力であったことを見せつけられては、考え直さねばなるまい。一方政府も「昨年指導価格をやめたばかりで朝令暮改だし、法的に根拠がないので……」と拱手傍観することは、日本の農政の府として余りにも情けない。法的根拠がなければ国会で必要な法律改正なり、制定をしてもらっても、一日も速やかに、国民に対する最高の栄養食品を安んじて供給し得るようにすることが“公僕”たる道ではあるまいか。自由経済だから……なんて頭の悪い大臣が言って居られたことがあるが、原則はあくまでも原則であって、例外もあるし、運用の妙もある。狂人が檻を飛び出したような事態に猶原則を固執しては居れないだろう。

(二) 生産コスト引き下げは日本酪農の自衛手段である。

ニュージーランドの酪農と日本の酪農は生産基盤が違う、だからと云って日本の乳価がいくら高くともよい、と云うものではない。あの酪農研究所で説明された「工業用カゼインの食用化」には寒気を覚える気がしたし、デーリーボードの会長や総支配人の言葉も無関心では聞けないものであった。

(イ)の末項で述べたように還元乳、或は合成乳防止を法的に規制してもらうことだけでは、猶不安である。

物価指数で云えばまだ安い。と云う声もあるが、米のように国民食そのものになっていない牛乳だけに、今後の普及を考えたら、物価指数に比して常に控え目であることが必要ではなかろうか。

だとすれば、生産コストの引き下げが去年より今年、今年よりも翌年と進まなければ酪農家は潰れてしまう。

現在の酪農課が今後もその規模を拡大し、或は後に続く新しい酪農家にも不安なくとびこんでもらうためにも、或は団体や、メーカーが健全に伸びて行く為にも牛乳(生乳―牛乳)生産コストの引き下げが絶対必要である。

幸い現在は生乳生産の伸長が、どうやら本物になって来た。この時にこそ国も地方公共団体も酪農生産者団体も、生産者も、メーカーも、将た又販売店も、全部がコストダウンに努力しなければならない。

第47回 宮崎県酪農青年女性酪農発表大会

JAみやざき 酪農課 伊豆元真由子

令和7年3月6日(木) JA・AZM別館研修室(宮崎市)にて、酪農家・関係機関約70名が参加し、第47回 宮崎県酪農青年女性酪農発表大会を開催しました。酪農意見体験発表の部で、西諸地域代表の岡崎博則さん(西諸酪農青年女性部)が「固定観念に囚われない 向上心を持って」というテーマで発表されました。



意見体験発表の部 「固定観念に囚われない 向上心を持って」

私が就農している「霧島牧場」は、祖父が昭和40年代半ばに始めた放牧主体の牧場であり、私で3代目になります。現在、私と両親の3人で、経産牛50頭と育成牛30頭の乳牛計80頭を飼養しており、搾乳方法はタンデムパーラーになります。高校卒業後、ニュージーランドの牧場で4年間働いた経験と約60haという広大な草地を活かして、九州では珍しい放牧による酪農経営をしています。普通科の高校を卒業後、両親の後押しもあり、放牧酪農の盛んなニュージーランドへ行く決心をしました。

ニュージーランドの語学学校で数ヶ月英語を学び、2014年から「Wada Dairy Farm」という牧場で4年間働きました。当時のWada Dairy Farmは、搾乳牛800頭、育成牛400頭を飼養しており、ストリップ放牧により、配合飼料を削減しながら低コストでの酪農経営をされていました。日本人の経営者と私を含めて従業員は4人だけであり、草地の広さ、牛の頭数の多さ、作業スピードすべてが圧倒的で当時の自分には驚きの連続でした。私のメインの仕事である搾乳と草地管理を通して、トラクターなどの農業機械の使い方や草地管理の技術を学ぶことができました。

2018年に帰国してからは実家で就農し、当時、経産牛32頭、育成牛21頭で放牧を行い、乳量は1頭平均で1日21kg、年間個体乳量は約6,300kgでした。ニュージーランドでの経験を活かし、ストリップ放牧をしたいと考えましたが、草地の管理が行き届いておらず、荒れている状況でした。そのような中、できる限りの草地の管理を行った結果、その年の春からストリップ放牧を行うことができ、配合飼料をピークの半分にまで減らすことができました。エサ代も半分に減り、放牧地の状態も日に日に良くなっていくのが目に見えるようになり、毎日が楽しかったのを覚えています。

しかし、ニュージーランドの技術をそのまま地元九州で取り入れたため、気候の違いからうまくいかず、2年目には生乳を廃棄することもありました。3年目には、コスト削減のために購入飼料を減らした結果、徐々に乳量が下がっていきました。そこで、地元の気候や草地に合わせた放牧を行うため、周囲の酪農家や九州で放牧を行っている方、専門家にも相談し、2022年から本格的に対策を始めました。

まず、チカラシバにタンパク質が高いということを聞き、牛が食べやすいようサイレージ化した上で、暑熱対策のため牛舎で給与しました。更に、乳量を増やすために飼料設計を見直し、配合飼料もしっかり与えました。それらの取組により、牛のストレスを軽減し、二等乳の発生が無くなり、また、2024年12月時点で乳量が1頭あたり1日平均20kg、年間約5600kgまで回復しました。当初は、配合飼料を増やすことに少し抵抗がありましたが、実際に乳量・乳質の向上を目の当たりにし、「地域には地域に合った飼養管理があり、固定観念にとらわれず、地域や現状に合った酪農経営を探していくことが最も重要である」ということに気づかされました。

地域の酪農青年部との交流でも良い刺激をもらっています。本やネットから得る知識よりも、同じ地域の同世代の酪農家と情報交換をすることで、ためになることがたくさんありました。加えて、酪農青年部で理解醸成活動にも取り組み、牛乳の消費拡大運動にも力を入れています。

現在は、所有地の半分程しか利用できていないので、今後は全て利用できるよう更に工夫し、面積に見合った頭数を飼養しながら乳質も上げていきたいと考えています。更に、牧草の質を向上させ、配合飼料に頼らない放牧経営を目指します。畜産を取り巻く情勢は厳しい状況が続きますが、牛舎や機械設備等も古いので、将来的には新しい牛舎を建て機械設備も更新し、結婚もしたので早く自分達の家も建てたいと思います。最後に、近年は酪農家戸数が減り高齢化も進んでいますが、ありがたいことに私の周りには近い世代の仲間がいるので、皆で小林市から酪農を盛り上げていきたいです。



フードバンクみやざきへの LL牛乳贈呈式



JAみやざき 酪農課 海野 真衣

令和7年2月28日、JA宮崎経済連はフードバンクみやざきに対しLL牛乳の贈呈を行いました。この取り組みは、酪農理解醸成及び牛乳消費拡大の一環として令和4年から行われていて、今年で3回目の実施となります。

今回は、LL牛乳200ml×24本入り全体で240ケース(5,760本)の贈呈をいたしました。

フードバンクみやざきの金子センター長からは「支援を続けて頂けることが有難い。子どもたちが牛乳を飲んで『これからも飲みたい』という循環ができれば嬉しい」とのお言葉を頂きました。

『酪農宮崎』表紙写真大募集!!

毎月掲載しています「酪農宮崎」表紙写真ですが、あなたの撮った写真を掲載してみませんか？

酪農において「おもしろい写真が撮れた!」や「キレイな写真を撮った」、「子供や自分が描いた絵がある」、「牧場メンバーの写真を紹介したい」など、様々なことがあると思います。それを酪農宮崎の表紙に応募してみませんか？

インスタだけでなく、酪農宮崎でも共有してみましょう。

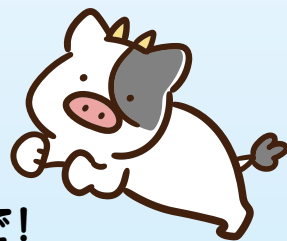
不定期の採用となりますが、採用者には景品をプレゼントいたします!

たくさんのご応募お待ちしておりますま〜す♪

【申込先】

JAの酪農担当部署、JAみやざき本店酪農課

(TEL:0985-31-2128 Fax:0985-31-5765)まで!



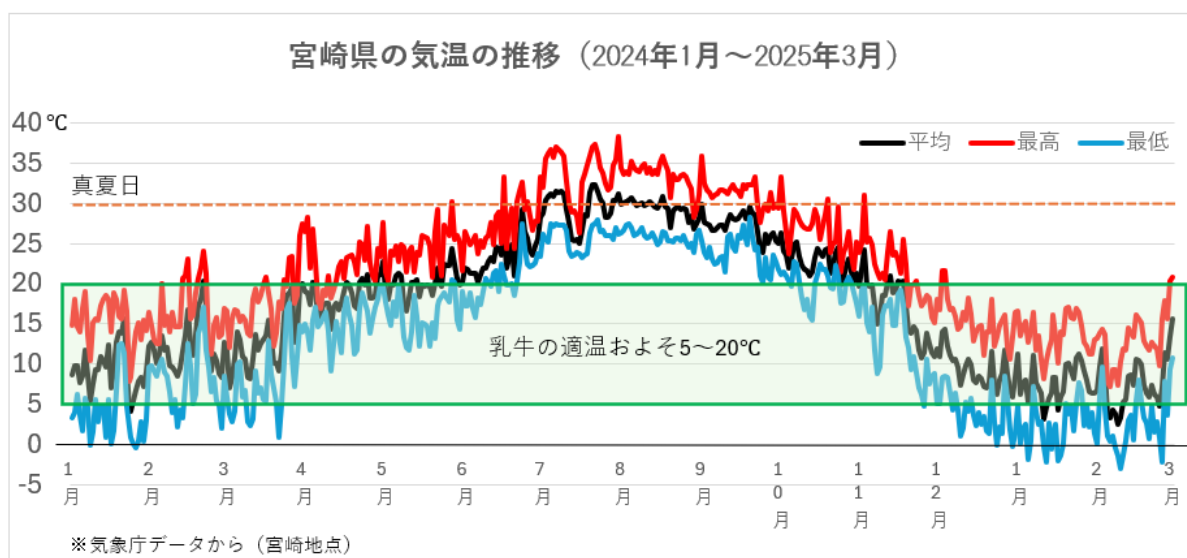
暑熱対策は早めに準備をしましょう

1 はじめに

2024 年の夏は猛暑で、7月上旬の暑くなった時期に乳量の低下が大きく、県内の生乳生産量が著しく下がりました。もうすぐ暑い夏が来ます。本格的な暑さが来る前に暑熱対策を始めましょう。

2 乳牛の適温

乳牛の適温はおよそ 5～20℃です。最も快適に過ごせる温度は 13～18℃と言われています。宮崎県の気温の推移をみると 20℃を超えた月は 4 月～11 月でした。4 月までには対策を整えておく必要があります。

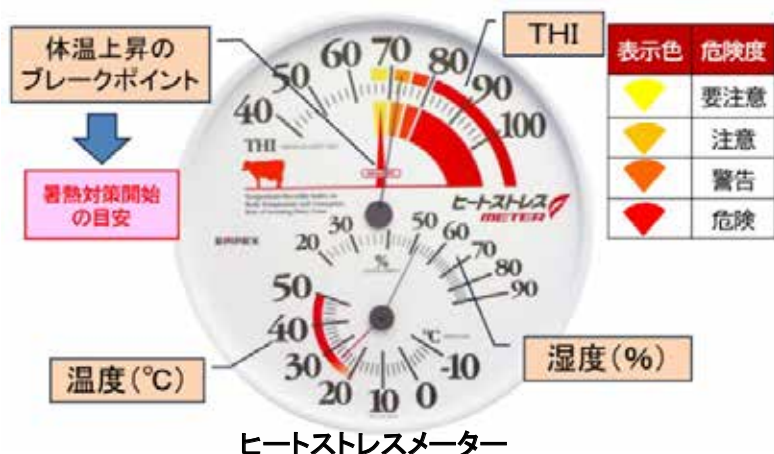


3 暑熱ストレスの指標

暑熱ストレスは気温だけではなく、湿度も関係します。乳牛は人と同じく、気温が高くじめじめした日はとても不快ですが、気温が高くてからっとした乾燥した日は快適に感じます。

乳牛の暑熱ストレスを評価する指標として「THI(不快指数)」があり、次の計算式で算出します。

$$THI = \text{温度} \times 0.8 + (\text{相対湿度} / 100) \times (\text{温度} - 14.4) + 46.4$$



乳牛は、THIが 68 以上を超えると、乳牛の生産性が低下し、72 以上で受胎率の低下等の影響、79 を超えるとさらに影響が大きくなるので、早々の対策をとるためにも、日々の指標の確認と乳牛の観察が重要になります。

4 観察で乳牛のサインを見逃さない！

暑熱ストレスを受けているとき、次のような行動がみられます。

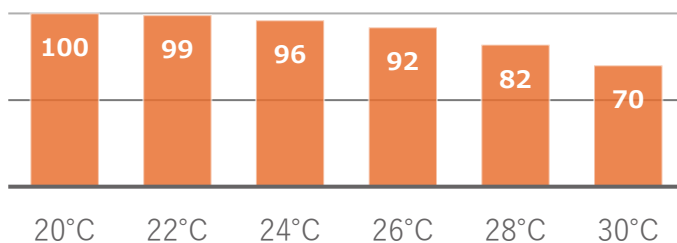
乳牛のサイン

- 呼吸数が増える
- 飲水量が増える
- 採食量が減る
- 乳量が減る
- 体温が上がる(39.2℃以上)
- 横臥しない、反芻の回数が減る



(体温はどうか？) (食い残しはないかな？)

平均気温と乾物摂取率(%)の関係



気温が高くなるにつれ、飲水量は増えてきます。採食については、気温が 20℃を超えると、乾物摂取率が下がり気温 30 度では 7 割に減ります。その結果、乳量が減り、繁殖成績にも影響を及ぼすことになります。

※日本標準飼料成分表乳牛（2017 年版）より、平均温度が 20℃のときを 100 としたときの乾物摂取率

5 暑熱ストレス対策のポイント！

乳牛のサインを見つける前に対策を取ることが大切です。

まずは、舎内温度を下げるために、牛舎内と換気扇を清掃し、日々十分な換気を行い、さらに、寒冷紗等により遮光や遮熱をしましょう。また、体温を下げるために、扇風機や換気扇の向きや台数を調整し、牛体に風が当たるようにしましょう。

日々の観察で、水を飲めてない個体がないか確認し、不足のときは水槽を増やす等、常に新鮮で清潔な飲水を確保しましょう。また、乾物摂取量を確保するために、エサ寄せや涼しい時間帯での給与などにより良質な飼料をしっかりと食べ込ませましょう。

対策のポイント

- ◆ 舎内温度を下げる
- ◆ 新鮮な飲水量の確保する
- ◆ 新鮮な飼料を食い込ませる
- ◆ 体温を下げる



(きれいな水を飲みたい)



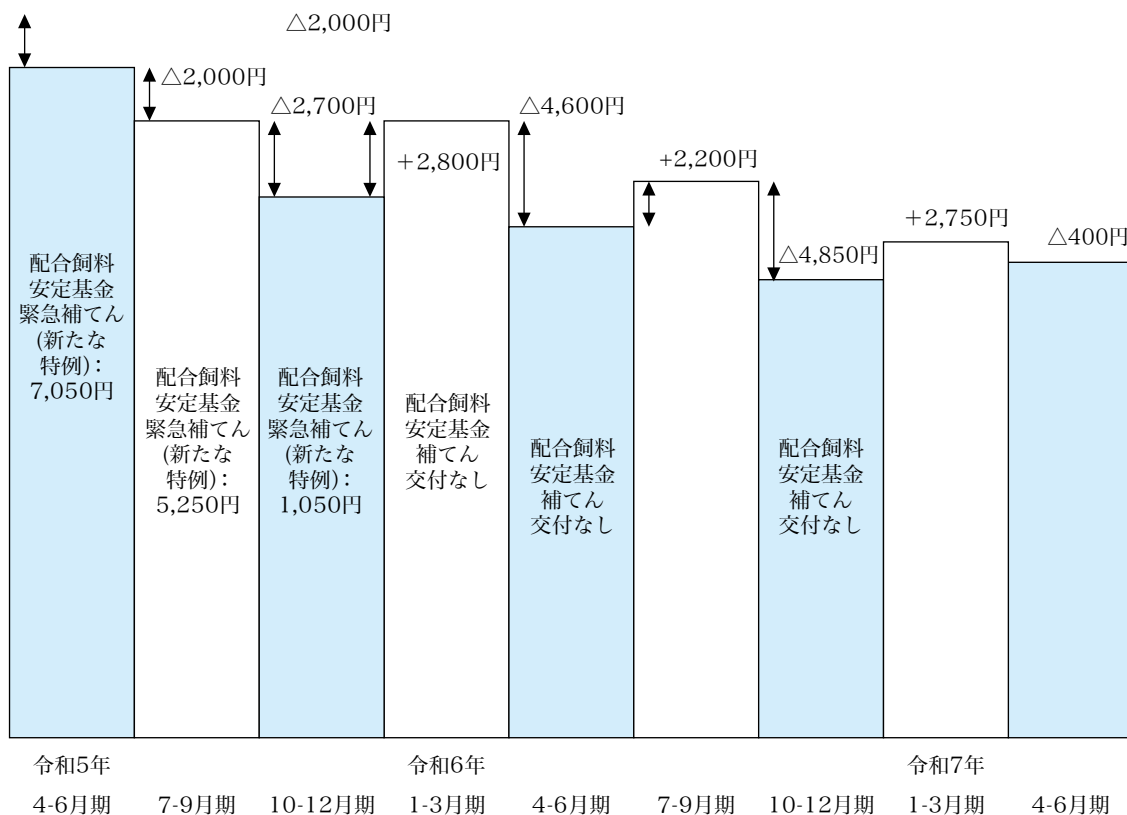
(エサ寄せ後)

6 おわりに

これから暑くなります。出来るところから取り組んでいきましょう。また、熱中症予防のために、人も作業中はこまめな給水を行いなど対策しましょう。

(宮崎県総合農業試験場専門技術センター)

配合飼料価格改定の推移について(令和7年4～6月期)



1. 主要因

①とうもろこしのシカゴ定期は、12月上旬は440セント／ブッシェル前後で推移していたが、1月10日米国農務省発表の需給見通しで米国産とうもろこしの生産量が下方修正されたことなどから、2月中旬には500セント／ブッシェル前後まで上昇した。その後、2月27日米国農務省発表の作付面積見通しが市場予想を上回ったことや、米国の関税引き上げを受けた報復関税が課され、米国からの輸出が落ち込む懸念などから下落し、現在は470セント／ブッシェル前後で推移している。一方、シカゴ定期に加算される内陸産地からの集荷コストなどはミシシッピ川の水位が回復したことから下落している。

今後は、南米産の作柄や米国産新穀の作付動向に加えて、米国の関税政策などに左右される相場展開が見込まれる。

②大豆粕のシカゴ定期は、12月上旬には320ドル／トン前後で推移していたが、アルゼンチンでの乾燥による作柄悪化懸念などから1月上旬には340ドル／トン前後まで上昇した。その後の降雨予報などにより相場は下落し、現在は330ドル／トン前後で推移している。

国内大豆粕価格は、主要輸入相手国である中国の大豆粕価格が下落していることなどから値下がりが見込まれる。

2. 海上運賃

米国ガルフ・日本間のパナマックス型海上運賃は、11月上旬には50ドル／トン台で推移していたが、南米産大豆の輸出開始が収穫遅延により遅れたため船腹需給が緩和したことや、原油相場が下落したことなどから、現在は44ドル／トン前後で推移している。

原油相場が軟調であるものの、今後は南米産大豆の輸出が最盛期を迎え船腹需給が引き締まる見通しであることなどから、底堅く推移するものと見込まれる。

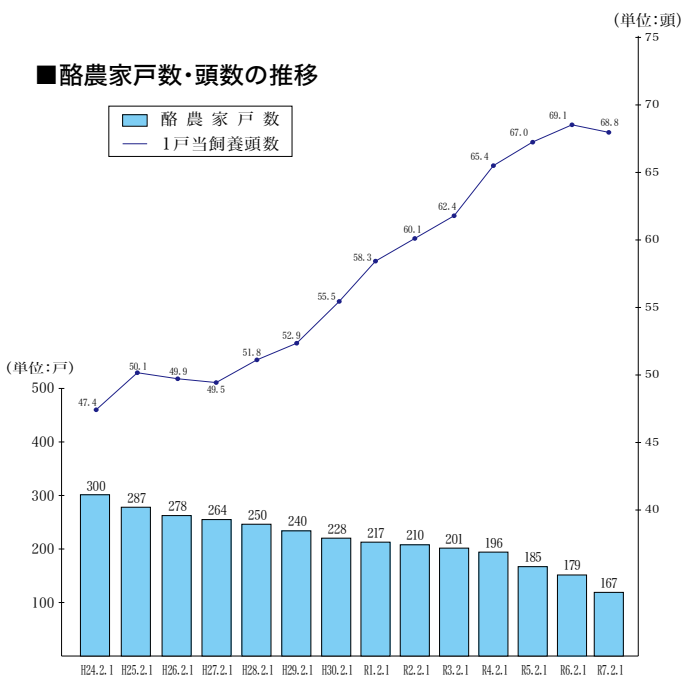
全国全畜種総平均(全農系)トン当たり400円値下げとし、銘柄別に決定する。

酪農家戸数・頭数調査(令和7年2月1日現在)

酪農家戸数167戸

令和7年2月1日現在の酪農家戸数は、167戸(前年比93.3%)、乳牛総頭数は11,493頭(前年比93.7%)、経産牛頭数は8,226頭(前年比97.7%)となっています。1戸当たり総頭数は68.8頭で前年より0.3頭増加しています。

年間で酪農家の廃業が12戸ありました。酪農廃業の主な理由は、体調不良による廃業が1戸、高齢による廃業が5戸、後継者の不在が1戸、経営不振が3戸、労働力不足が1戸、和牛経営移行が1戸でした。



酪農家戸数頭数調査

(令和7年2月1日)(単位:頭)

項目 農協名	酪農家 戸 数	乳 牛 総頭数	一戸当 総頭数	経産牛 頭 数	一戸当 経産頭数	搾乳牛 頭 数	乾乳牛 頭 数	初妊牛 頭 数	育成牛 頭 数
こばやし	29	1,483	51.1	986	34.0	864	122	155	342
えびの市	9	564	62.7	390	43.3	349	41	64	110
計	38	2,047	53.9	1,376	36.2	1,213	163	219	45
都 城	75	4,684	62.5	3,414	45.5	3,025	389	427	843
南 部 酪	15	1,058	70.5	753	50.2	664	89	84	221
計	90	5,742	63.8	4,167	46.3	3,689	478	511	1,064
尾 鈴	10	781	78.1	553	55.3	488	65	73	155
児 湯	7	890	127.1	573	81.9	500	73	65	252
西 都	6	966	161.0	841	140.2	732	109	90	35
宮崎中央	2	387	193.5	252	126.0	230	22	49	86
延 岡	2	45	22.5	45	22.5	40	5	0	0
計	27	3,069	113.7	2,264	83.9	1,990	274	277	528
串 間 酪	12	635	52.9	419	34.9	375	44	48	168
総 計	167	11,493	68.8	8,226	49.3	7,267	959	1,055	2,212
令和6年2月1日	179	12,271	68.6	8,420	47.0	7,456	964	1,128	2,723
増 減	▲ 12	▲ 778	0.3	▲ 194	2.2	▲ 189	▲ 5	▲ 73	▲ 511
前 年 比	93.3%	93.7%	100.4%	97.7%	104.7%	97.5%	99.5%	93.5%	81.2%

農学部 ナンノ教授のひとりごと

ミジンコに学ぶ

南野 快

水が温くなるこの時期、田んぼの水にも様々な生き物が現れる。大きさ1ミリ前後のプランクトンであるミジンコもその一つ。漢字で微塵子、あるいは水蚤と書く。英語でもwater flea(水中のノミ)と言う。ミジンコと聞いて多くの人は、手を前に出しつつ、大きな眼をして横向きで水の中をプカプカと浮かぶ可愛い姿を思い浮かべると思う。この大きな眼、左右に2つあるのではなく、2つの眼が融合していて、正面から見たら手を左右に広げた一つ目小僧のようで、カワイイとは言いがたい(というか、ちょっとグロテスク)。

このミジンコ、その生殖様式がユニークである。ミジンコにとって快適な環境下ではオスとメスが交尾して子を産むのではなく、通常は単為生殖によってメスだけで自身のクローンである卵を産む。そして、その卵からはメスしか生まれない。ところが、日照時間が短くなったり水温が低下してエサである植物プランクトンが無くなったりするとオスを産み、オスとメスの間で耐久卵(休眠卵)という卵を作るようになる。この耐久卵は乾燥した環境下で何年も持ちこたえ、環境が良くなるまで生き続ける。水の中で卵のまま過ごすこともできるらしい。そして環境が良くなるとメスを産み始める。環境の変化に応じてメスとオスを産み分けているのだ。さらに昨年、東北大学などのグループが、同じ沼の中に遺伝子型が異なるミジンコの2集団(強い集団と弱い集団)が共存して生息しているのは、弱い集団が休眠卵を早めに、そして多く産むことで絶滅せずに生き残っていることを示唆する観察結果を発表している。

単為生殖で繁殖するミジンコは遺伝的多様性が低い。単為生殖を続ける個体群は有害遺伝子が蓄積し、病気による抵抗性が低いために消滅の可能性があるとも

言われている。それはひょっとしたら何百年後、あるいは何千年後かもしれないが、ミジンコのいない田園風景を想像するとなんとなく寂しいと感じるのは私だけだろうか。

とは言うものの、ミジンコの絶滅よりも人間社会が長く持続するのか、という点も気になる。人間社会ではこの数十年間でDEI(ディー・イー・アイ)、「Diversity(多様性)」「Equity(公平性)」「Inclusion、包括性)」が奨励、推進されてきたが、この数カ月で反DEIの流れが世界各地で起きている。人類もミジンコに学び、マイノリティなど社会的に弱い集団は環境が良くなるまでの暫しの間は“休眠”し、“耐久”するのも長期的な生き残り戦略として有効かもしれない。



写真：2020年秋に設置された宮崎駅前の日向夏ポスト。昨年の天候不良の影響で今年は店頭に並ぶ数も少ないようだが、今年は沢山実るように祈るばかりだ。ところで今年4月1日、駅そば(錦本町)にM大の“ひなたキャンパス”がオープン、様々な行事がここで開催されることになる。

ZENRAKUREN



初乳粉末製品

全酪連の牛用混合飼料

GOOD START

PREMIUM

グッドスタート プレミアム 内容量 250g/袋

免疫グロブリン
70g/袋以上
含有



和牛
にも!

消化・吸収・機能性に優れた各種成分を配合しました!

良質な
初乳粉末

中鎖脂肪酸

ビタミン
ミネラル

乳酸菌
ビフィズス菌

全卵粉末



全国酪農業協同組合連合会

フレーク&ペレット

➤ 乳配M

- CP 17.0%・TDN 72.0%
- ハイキューブ、綿実を多く配合したミックスタイプ



➤ 乳スタンダード

- CP 17.0%・TDN 74.0%
- ローコストでベーシックな搾乳牛用配合飼料



➤ 乳ブレンド18

- CP 18.0%・TDN 74.5%
- 綿実・ビートパルプを多く配合



マッシュタイプ

➤ デイリープレミアムM

- CP 17.0%・TDN 74.5%
- バイパス蛋白配合
- ビタミン・ミネラル強化



➤ パワーSマッシュ

- CP 17.0%・TDN 74.0%
- シンプルな内容で低コストを実現

